

令和7年度

総合型選抜Ⅰ期 問題 課題作文

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 受験票に記載された学科と解答する学科に相違がないか、確認すること。
また、健康栄養学科・看護学科・理学療法学科・作業療法学科の受験者は、受験票に記載された科目と問題冊子に相違がないか確認すること。異なる場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」、「受験番号」を記入すること。受験番号は算用数字で記入すること。
- ④ 試験時間は、60分です。
- ⑤ 句読点は1字として数えること。
- ⑥ 下書きは、問題用紙の余白・裏面を使用すること。
- ⑦ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑧ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

目 次

	ペ ー ジ
健康栄養学科	1
看護学科	3
理学療法学科	5
作業療法学科	7
生活環境学科	9
児童教育学科	11

設問 I 次の記事では、障害のあるかたとの共生社会について述べられています。住、衣、食、ビジネス、情報、教育の分野から一つ選び、共生社会についてあなたが考えることを400字以内で説明してください。

見出し：市民の意識と行動 共生社会へのカギ (朝日新聞・朝刊 2024年6月25日抜粋)

「合理的配慮」と聞いてすぐに理解できる人は少数でしょう。でも市民一人ひとりが、人としてごく当たり前の配慮をすることだと思うのです。例えば、目の前を歩いている人が転倒したら手を貸そうと思いませんか？ それは法律やなにかのマニュアルにあるからではないはずです。社会生活を送る上での人としての倫理といえます。

(「合理的配慮」を考える) 市民の意識と行動、共生社会へのカギ 土橋喜人さんに聞く
朝日新聞 2024年6月25日 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる 承諾番号 25-0806

設問 II 次の記事を読んで、①市民と協働することを促すファシリテーターの役割を説明し、②市民と行政と一緒に協働することで身の回りの生活においてどのような良い点があるかについて、合わせて400字以内で記述してください。

対話でつくる地方創生 一佐藤准教授と考える 2—

意見引き出し合意へ、会議の交通整理、スキル必要

(朝日新聞・朝刊 青森全県 2015年5月12日抜粋)

「市民参加」、「協働」を市政運営の中心に据える自治体は県内にも多い。市民参加は、行政の政策策定、実施、評価のプロセスに市民に参加してもらうこと。協働は市民と行政と一緒にを行うことを指す。

—中略—

対話を進めるにはファシリテーションのスキルが必要になる。それは話し合いにおける相互作用を促進させる働き。会議の交通整理を行うスキルだ。

世の中で行われている多くの話し合いや会議が、うまく機能していない。原因は一部の人しか意見を言わない、会議の目的が不明確、議論がかみ合わない、意見の衝突が個人攻撃に代わる、など様々である。ファシリテーターはその実践者だ。

牧之原市には、2007年から、地域の人たちが課題を話し合う「男女協働サロン」という対話の場がある。運営を担うのは、研修で学んだ市民ファシリテーターだ。

サロンは、会議の飾りつけをし、お菓子を準備、「自分だけしゃべらない」、「人を批判しない」、「楽しい雰囲気です」という三つのルールの下で進行する。ファシリテーターが意見を引き出し、合意形成にまで導いていく。

対話でつくる地方創生一佐藤准教授と考える 2— 意見引き出し合意へ、会議の交通整理、スキル必要
朝日新聞 2015年5月12日 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる 承諾番号 25-0806